

小学校外国語におけるタスクを志向した活動を導入した教材開発

学籍番号 19067 氏名 佐藤竜晟

キーワード： パターン・プラクティス コミュニケーションレベル タスクを志向した活動 (TOA)

概要

2017 (平成29) 年改訂の小学校学習指導要領において中学年では外国語活動が、高学年では外国語科が導入された。これによって英語はさらに重要視されているため、本研究では主体的・対話的で深い学びを実現できる英語の授業を考察したいと考えている。深い学びという点で、英語科ではコミュニケーションに関わる味方・考え方が示されているため、この点を「意味のある文脈」という観点から検討する。そのために、意味のある文脈とは何か考えるにあたって意味の定義をまとめ、英語教育の指導方法について言及した後、中心とする指導法、タスクを志向した活動 (TOA) を提案する。

本稿では、リサーチペーパーの内容に基づき、研究の過程で得た実践報告と資料の一部を以下に掲載する。

I 研究報告

本研究では小学校外国語教育における指導の在り方について、コミュニケーションを段階ごとに定義したコミュニケーションレベルに基づき、授業づくりと実践を行ってきた。その際に作成・活用した教材と実践の報告を以下に掲載する。

- 1 コミュニケーションレベルについて
- 2 タスクを志向した活動 (TOA) について
- 3 実践報告① “What do you like?” 『Let's try 1』 F小学校 第3学年
- 4 実践報告② “Let's think about our food.” 『NEW HORIZON Elementary 6』 F小学校およびA小学校 第6学年

1 コミュニケーションレベルについて

人が言葉を用いる時、そこで伝達される意味には、表1のように4つのレベルが存在する。なお、これら4つのレベルは重層構造をなしており、上位レベルは下位レベルを包括している (三浦, 2010)。

レベル1の段階では単なる字面の意味の伝達にとどまる。例えば、なんの脈絡もなしに “I like dogs.” という文を提示しても字面の意味しかなく、犬が好きかという事実とは何の関係もない。レベル2では、事実と対応する意味の伝達はあるが、その意味は伝達する必然性を必ずしも伴っていない。たと

表1 コミュニケーションレベル (三浦, 2010)

レベル4	↑	人間的な価値のある意味の授受
レベル3		伝達ニーズのある意味の授受
レベル2		場面や文脈に適合した意味の授受
レベル1		記号的意味の授受

えば同じクラスの中で、“Who is your homeroom teacher?” と問う活動は、互いに自明のことをわざわざ聞いているので、伝達する必要性を伴わない。レベル3では発信者と受信者の間で、必要感のある意味のやりとりが行われる。一方が知っている情報を、他方が知らないという情報のギャップが存在し、それを埋めようとする際に、伝達する必要性が生まれる。ただし、このレベルでは必ずしも当事者にとって価値ある意味を扱うとは限らない。たとえば尋ね合いながら地図を完成させる活動で、「こんな行く予定もない人工的な街の地図を完成させることに何の意味があるのか?」と疑念を抱けば、活動は無意味である。レベル4では発信者と受信者の間で、自分や相手にとって価値のある、自己向上、他者理解、人間関係づくりなど、意味を持った伝達が行われる。これらのコミュニケーションのレベルについて、レベル1～3までの活動は、慣れを生むための擬似コミュニケーション活動、つまりパターン・プラクティスとして役に立つものであり、下位練習としてその存在意義はあるが、英語授業のコミュニケーション活動がこのレベルで終わってしまってはならない。仕上げ段階ではレベル4の人間的価値のある意味の授受まで高め子供の交流欲求を満たすべきである (三浦, 2010)。そこで、本研究では人間的価値のある意味の授受に向けた授業づくりを目指す。

2 タスクを志向した活動 (TOA) について

松村編 (2017) によると、英語指導の方法には、PPP (Presentation-Practice-Production) と TBLT (Task-Based Language Teaching) があると述べられている。PPP型の授業進行とは、①新しい文法や語法の「提示 (説明)」 (Presentation) を受け、それを理解した後、②当該事項に関する設問に正しく答えることを目指して「練習」 (Practice) を積み、③最後に目標事項を用いることが想定されたコミュニケーション活動でその「表出」 (Production) を経験するという、特定の表現の習得に最適の授業展開である。現在日本で採択されている教科書は、PPPが主とされている。しかし、PPPでは特定の表現の習得に必要なパターン・プラクティスに偏重することも危惧される。そこで、PPPに代わって注目されている指導法として、TBLTがある。TBLTとはタスクを活用した授業方法であり、タスクには満たすべき条件が4つある。①目的に応じたメッセージ内容 (意味) の

伝達や理解が要求される意味のやり取り，②課題達成のために埋めなければならない何らかのギャップ，③学習者がその時点で自らの持つ言語的・非言語的な現有リソースの活用，④課題の内容に関連した成果の設定である。TBLTでは，子供は設定された課題さえ達成できればよく，その過程でどんな英語を用いるかは問われない。自分の能力に合ったレベルで活動に参加できるため，どんな子供でも達成感を得ることができると考えられる。また，課題を達成する際に使う英語は，自分で考え出した表現であり，生きた英語となる。しかし，日本の授業形態は単元ごとに学習する表現が決まっており，子供の使える語彙や表現は限られているため，TBLT型の授業を小学校で導入することは難しい。そこで，現行の授業形態であるPPPを維持しつつ，その中にタスクを段階的に取り入れることが重要であると考え。タスクを行う素地を身に付けさせる

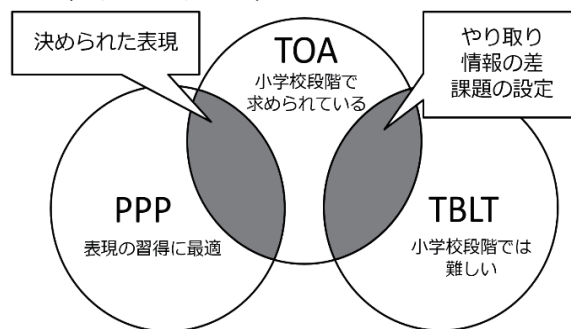


図1 TOAのイメージ図

ためにも，小学校段階では従来からなされている活動を通して基礎を培いながら，目標達成のための課題解決を図る活動が展開されることが求められる。東野，高島は，その方法として，タスクに繋がるタスクを志向した活動（Task-Oriented Activity以下，TOA）を行う必要があると述べている。TOAとはTBLTのタスク活動における情報の差，課題の設定は保ちながら，やり取りにおいて決められた表現内容に従って活動するという特徴がある。（図1）これはPPPにおける「表出」の部分を補う活動になることが期待される。限定された表現でやり取りを行う際，情報の差と課題の設定があることによって活動に意義を感じやすくなることが考えられる。そしてTOAに文脈を与えることが動機付けに役立つと考える。TOAを行ったことで得られた情報が後の活動で必要になる状況を作れば，より効果的になる。本研究では，TOAを織り交ぜることで小学校段階でのPPPを効果的にする授業を考える。次章では私が実際に行ったタスクにつながる活動の授業実践例を紹介する。

3 実践報告① “What do you like?” 『Let’s try 1』 附属小学校 第3学年

2020年8月に2回，F小学校にて授業を実践した。いずれも第3学年を対象，『Let’s try 1』“What do you like?”の全4時間のうち2時間目である。本時ではランキング作成をする授業実践を行った。以下にその指導案と工夫を掲載する。

1. 単元目標

- ・日本語と英語の音声の違いに気付き，身の回りの物の言い方や，何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。（知識及び技能）
- ・何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合う。（思考力，判断力，表現力等）
- ・相手に伝わるように工夫しながら，何が好きかを尋ねたり答えたりしようとする。（学びに向かう力，人間性等）

2. 言語材料

○ What do you like? I like (tennis). What (sport) do you like? I like (soccer). ○ what, color, スポーツ (sport, volleyball, table tennis), 飲食物 (food, hamburger, pizza, spaghetti, steak, salad, cake, noodle, egg, rice ball, jam), 果物・野菜 (fruit, grapes, pineapple, peach, melon, banana, kiwi fruit, lemon) [既出] 挨拶, Do you like (blue)? Yes, I do. / No, I don’t, 数(1~20), 色, 果物・野菜, 飲食物, スポーツ

3. 関連する学習指導要領における領域別目標

聞くこと

ア ゆっくりはっきりと話された際に，自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。

話すこと（やり取り）

ウ サポートを受けて，自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

指導過程（3/4時間目）

時間	児童の活動	指導者の活動	準備物
5分	・挨拶をする。 I’ m ~. How are you?	・全体に挨拶をし，個別に数名の児童に挨拶をする。	
5分	【Let’s Chant】 What do you like? p.19 ・音声に合わせてチャンツを言う。	・児童と一緒に言う。	

15分	【Activity 1】 ・友達の好きなもの(食べ物, 色, スポーツ)とクラスでのランキングを予想し尋ね合う。	・普段の様子から友達の好きな「食べ物」「色」「スポーツ」を予想させ、クラスでは何が人気か考えさせたうえで、好きなものを尋ね合わせる。(クラスで歩き回って行う活動なので、時間は短く区切る) ・次時の Activity 2 につながる活動であり、児童が自信をもってできるよう支援を行う。 ◎何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合っている。 <行動観察・振り返りカード点検>	ワークシート, カード
15分	・それぞれのカテゴリーについて好きな物を発表させ、ランキングを作る。	・それぞれのカテゴリーについて好きな物を児童に尋ね、発表させる。 ・また、そのカテゴリーについて何が好きかを、指導者が数名の児童に尋ね、次時の活動につなげるようにする。	ワークシート, カード
5分	・本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。	・英語を使おうとする態度や本時のねらいについて児童のよかったところを称賛する。	振り返りカード

授業における工夫





ランキングを考えることでインタビューを行う際により意欲的になることが期待される。ただお互いが好きな物を聞き合ってもそれで終わってしまう。そこで、インタビューゲームのあとにクラスでのランキングを発表すれば英語が苦手な児童でもランキングの結果を知るために関心を持つと考えられる。また、ランキングを考えることは英語の技能が関係しないため、どの児童にもゲームに勝つチャンスがある。

教具について

本時で扱った教具は以下のワークシートである。1回目の実践では児童の実態を把握しきれていない結果、扱うカテゴリーを4つにしたことで時間が足りなかった。そこで、2回目の実践ではカテゴリーを半分減らすことで時間の調整をした。また、板書については、3年生において書く活動はないためあらかじめ文を印刷して貼る方式で指導した。


資料1 実践1回目のワークシート

表

"What do you like?"				
Name _____				
	Sport  スポーツ	Color  色	Food  食べ物	Animal  動物
I (わたし)				
友だち				

裏

Name _____				
3-2 Ranking (よそう)				
Sport  スポーツ	Color  色	Food  食べ物	Animal  動物	
1				
2				
3				

3-2 Ranking (けっか)				
Sports  スポーツ	Color  色	Foods  食べ物	Animals  動物	
1				
2				
3				

資料2 実践2回目のワークシート

カテゴリーを2つに減らしたことで
表現の練習時間の確保に

表

“What do you like?”

Name _____

	Sport スポーツ 	Color 色 
I (わたし)		
友だち		

裏

Name _____

3-2 Ranking (よそう)

	Sport スポーツ 	Color 色 
1		
2		
3		

3-2 Ranking (けっか)













	Sport スポーツ 	Color 色 
1		
2		
3		

資料3 実践2回目の板書

What color do you like?

sport

I like

 pink	 orange	 purple	 green	 red	 blue
 basketball	 swimming	 baseball	 ski	 dodgeball	 soccer

3年生では書く活動は必要ないため、
扱う表現の板書はあらかじめ準備した。

実践報告② “Let’s think about our food.” 『NEW HORIZON Elementary 6』 F小学校およびA小学校 第6学年

2020年10月と11月に、宮城教育大学附属小学校とA小学校にて授業を実践した。いずれも第6学年を対象とし、単元は「オリジナルカレーを発表しよう」“Let’s think about our food.”（東京書籍令和2年度「NEW HORIZON Elementary 6」の全8時間のうち4時間目である。実践で作成した指導案における本時の指導および教具を以下に掲載する。

本時の指導

(1) ねらい

食べ物がどの栄養素のグループに入るか英語で伝えることができる。

(2) ねらいに迫るための手立て

- ・間違えることを悪いと思わせないように、積極的に会話している子供を褒め、自信をもって話すことができるようにする。
- ・栄養バランスを考えたオリジナルカレーを作るという目標を設定することで、栄養素ごとにグループ分けをする意義をもたせる。

(3) 研究テーマとの関連

＜研究テーマ＞ 「小学校外国語科における意味のある文脈を取り入れた授業づくり」

英語の授業では表現の定着のため、パターン・プラクティスを用いることが多い。特定の表現の定着のためには欠かせないが、それだけであると子供は関心をもちづらい。そこでオリジナルカレーを作るという目標を設定し、そのための食品リストを作成するというタスクを志向した活動を取り入れることで、意欲的に取り組みながらもその場の楽しさだけに捉われない意味のある対話を行える授業を目指す。

(4) 指導過程

段階	学習活動（○：発問）	予想される子供の反応	指導上の留意点 ※は評価の観点
導入	1 英語であいさつをする。 2 【Small talk】Are you hungry? という切り出しで行う。内容は What did you eat for breakfast? で行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ Good morning Ryusei sennsei. ・ I’ m fine thank you. How are you? ・ I’ m hungry. Are you hungry? <p>A: Are you hungry? B: Yes, I am. A: Me too. What did you eat last night? B: I ate curry and rice. A: That’ s nice. B: Thank you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 笑顔であいさつをし、アイコンタクトをとることによって英語で会話しやすい雰囲気を作る。あいさつの切り返しでは、“I’ m hungry. Are you hungry?” と言うことで次の【Small talk】につなげる。 ・ 机間指導を行いながら、一人で話し掛けに行くことに困っている子供等を支援する。
展開	3 本時のめあてを知る。 ○ 食べ物がどの栄養素のグループに入るかの表現を用いて伝え合おう。 4 【Main activities】 ・ 単語を確認する。 ・ 表現を確認し、読み書きの練習をする。 ・ 代表の子供とモデルトークを見せる。 ・ タスクを志向した活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのように会話すれば自分の言いたいことが伝わるかな。 <p>ペアでの会話例</p> <p>A: Hello. B: Hello. A: What group is meat in? B: Meat is in the red group.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ パワーポイントのスライドを活用して本時のめあてを提示し、活動の見通しをもたせる。 ・ タスクを志向した活動に向けた説明の際も、スライドを用いて説明することで英語が苦手な子供に対しても説明する。表現の確認の際は読み、書きを意識して行い、モデルトークでどのように活動をすればよいか想像させる。

	を行う。 ・全体で食材をグループごとに分ける。 ・児童に一つずつ食材を選ばせ、オリジナルカレーの例を作る。	A: Thank you. Good-bye. B: Good-bye.	・タスクを志向した活動ではルールを理解できていない子供に対して支援し、本時で扱う表現以外の表現を使って会話を広げている子供は褒める。 ・オリジナルカレーを作る際は栄養素について考えていれば偏りが出ても許容する。 ※ 食べ物がどの栄養素のグループに入るか伝えることができる。 (行動観察, ワークシート)
<div style="border: 2px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>リストを作るために知りたい情報を相手が知っていた時, "Nice!" のような反応が見られた。これは情報が自分にとって価値あるものだったと言える。</p> </div>			
終末	5 【Feedback】 本時の学習を振り返る。 6 終わりのあいさつをする。	・英語で意思疎通ができてうれしい。うまく伝わってよかった。 ・今日習った表現を上手に使えるようになった。 ・次の時間でも今日学んだ表現を使いたい。 ・See you again.	・新しい気付きや本時の学び等を振り返りシートに記入させる。 ・終わりのあいさつ That's all for today. Good-bye, everyone. See you again.

(5) 評価

	知識・技能
本時の評価規準	Beef is in the red group. /Bread is in the yellow group. といった食べ物がどの栄養素のグループに入るかの表現を用いて伝えて友達と交流することができる。
十分満足できると判断される子供の姿	Beef is in the red group. /Bread is in the yellow group. といった食べ物がどの栄養素のグループに入るかの表現を用いて伝えて友達と交流することができるに加え、英語に不安を持っている子供に対しても目を合わせたり相手の意図をくみ取ったりできる。
支援が必要と判断される子供への手立て	机間指導の際に交流につまずいている子供のもとに行き、発話の補助をして支援する。

授業における工夫

中心となる活動でTOAを取り入れたことが実践における工夫として挙げられる。TOAの内容として、4種類のワークシートの食材リストについて尋ね合いながら情報ギャップを埋め、完成させるというものだ。流れとしては、単語や表現の読み書きを練習した後、扱う会話例を基に尋ね合う活動をし、ワークシートにある食材を完成させるというものだ。(資料4)

また、ワークシートの変更点は、基本本文をなぞる活動をワークシートに載せたことだ。実践1回目では教科書に記載された基本本文をなぞる活動に取り組みさせたが、できるだけ机上を整理し、授業の流れも分かりやすくするためにもワークシートで活動を完結させることにした。

教具の工夫

本授業では導入から中心となる活動の説明でスライドを活用した。その際、Small Talkで扱った話題を基にオリジナルカレーを考えるという目標を提示し、その材料となる表を完成させることを活動の中心とした。それにより、子供が必要感をもつことができたと考える。(資料5 スライドにおける工夫も掲載)

そして、TOAを行った後、ワークシート裏面にある活動について、附属小学校の実習では子供たちそれぞれがオリジナルカレーを考え、それをクラスで共有する時間を設けた。(資料4) その活動に向けて子供は食材リストを完成させようとTOAに取り組んでいたため、活動の流れも自然になり、コミュニケーションレベルが4に上がったと考える。また、A小学校の実践では、自分でワークシート裏面のカレーを考える活動は次時に行うことにし、本時ではその前段階としてクラスでカレーを考える活動に変更した。子供に一つずつ食材を選ばせ、クラスでオリジナルカレーの例を作らせた。それによって新たな成果も見られた。一つは子供が活動に参加しやすいことだ。自分がカレーに入れたい食材を発表する形式にしたことで、普段はあまり発言しない子供も、好きな食材を入れようと積極的に発言した。また、使う表現も決まっていることで、より発言しやすかったと考える。もう一つは表現の練習時間が確保できることだ。子供が挙手をし、その食材がどの栄養素のグ

ループに入るか全員で発音することで、子供が表現を練習する機会が大幅に増えた。これによって、「表現を完璧に使えるようになった。」といった振り返りを多く確認することができた。いずれの実践においても、TOAの後にやる活動で、オリジナルカレーを完成させることを最終的な目標としたことで、必要な情報を集めたいという意欲をもたせることができたと考えられる。中心となる活動をパターン・プラクティスで終わらせず、文脈を作ることでコミュニケーションレベル4の実現につながったと言える。

資料4 実践のワークシート

一回目

ワークシートをなぞり、基本本文を書く時間の確保

二回目

Let's make a healthy curry !

Name _____

① Complete the list

What group is onion ? Onion is in the green group.

Red group	Green group	Yellow group
chicken beef	onion egg plant	noodles

potato rice green pepper pork carrot bread
 soybeans salmon tomato naan spinach

Let's make an original curry !

Name _____

① Complete the list

What group is milk in? Milk is in the red group.

Red group	Green group	Yellow group
chicken	onion egg plant	butter

potato rice green pepper pork carrot bread
 cheese salmon tomato naan spinach beef

裏

Let's make an original curry !

Name _____

② Making an original curry.

Choose foods

Red group	Green group	Yellow group

My original curry !

工夫したところや言葉や絵で表しましょう。

③ Let's share !

This is my original curry.


_____ is in the _____ group.

_____ is in the _____ group.

_____ is in the _____ group.

本時で扱う単語を soybeans, noodles → butter, cheese に変更
理由① 実践1回目でバターやチーズを使いたいという子供が多く見受けられたため。
理由② 扱う基本本文を単数形で揃えることで文法の指導を行わずに済むようにするため。

Small talk



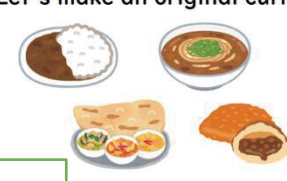
What did you eat for breakfast?

I ate

1

スモールトークの話題は本時の展開につなげやすいものに

Let's make an original curry!



3


Today's goal

食べ物がどの栄養素のグループに入るか伝え合おう。

3

Do you remember?

Color groups




4

著作権により
給食の献立表は省略する。

5

普段見る献立表から栄養素に着目させる


Color groups



4

The red food group


Making the body and blood.



7

The green food group


Keeps the body in good order.



8

The yellow food group

A source of energy.



9

I'll give you food list.
This list is not finished yet.


① Complete the list

This list is separated by food color groups

Red group	Green group	Yellow group


10

Word Link




11

単語の発音練習もスライドで行うことで時間短縮と見やすさの向上




tomato

12




bread

13




carrot

14




green pepper

15




potato

16



salmon

17



egg plant

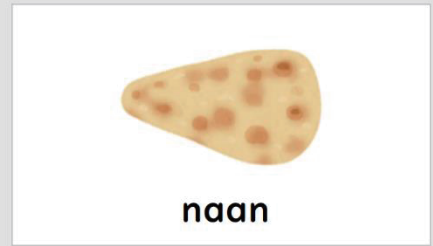
18



19



20



21



22



23



24



25



26



27

Writing → Practice

What group is milk in?

Milk is in the red group.

28 表現の練習の際、どの単語を言い換えればいいのか分かりやすく

What group is beef in? Sorry, I don't know.

What group is milk in? Milk is in the red group.

29

① Complete the list

- Please use an expressions.
- Don't show it to others.
- You have to do activities in pairs.

30 スライド 30 以降は次時での活動に変更

What group is beef in? Sorry, I don't know.

What group is milk in? Milk is in the red group.

31 TOAの際、机間指導だけでは補えない発話の補助として会話例を掲示

Red group	Green group	Yellow group
pork, beef, chicken	carrot, tomato, onion, green pepper	bread, potato, rice, butter, naan
cheese, salmon	egg plant, spinach	

32

33

② Make an original curry.

- Choose foods from the list.
- Write your ideas.

34

This is my original curry .

Beef is in the red group.
Onion is in the green group.
Tomato is in the green group.
Green pepper is in the green group.
Rice is in the yellow group.

35

③ Let's share !

36

資料6 授業の様子（実践一回目）



電子黒板での基本文の掲示によって、確認すべき基本文をいつでも子供が見ることができるようにした。

黒板での板書は、確認すべき基本文の書き方や、基本文を様々な単語を入れて練習する際にカードとともに活用。

Ⅲ 研究成果の学校教育における位置づけ・意義，応用性，期待

本教材により、英語の授業内にてタスクを志向した活動（TOA）を導入することができる。TOAを通じて到達させたい目標を設定することができるため、コミュニケーションレベル4に到達させることが子供が意欲をもって活動に取り組める授業を目指すことができる。また、タスクを志向した活動をする際に、子供が目的意識を持つことができれば、効果も大きく変わることが期待される。授業の流れを意識して、教師、子供にとって「意味のある文脈」がある授業づくりに取り組みたい。

Ⅳ 引用・参考文献

- 和泉伸一（2009）『フォーカス・オン・フォームを取り入れた新しい英語教育』，大修館書店
- 高島英幸編（2005）『文法項目別 英語のタスク活動とタスク —34の実践と評価』，大修館書店
- 松村昌紀編（2017）『タスク・ベースの英語指導—TBLTの理解と実践』，大修館書店
- 三浦孝ら（2010）『ヒューマンな英語授業がしたい —かかわる，つながるコミュニケーション活動をデザインする—』，研究社